

驚きをもたらす読書

異文化コミュニケーション研究科教授 野田 研一



- 『渡りの足跡』 梨木香歩著(新潮文庫 2013年)
- 『ジーンとともに』 加藤幸子著(新潮社 1999年)(もしくは『心ヲナクセテヲ残セ』(角川文庫 2008年))
- 『東京漂流』 藤原新也著(朝日文庫 2008年)
- 『苦海浄土:わが水俣病』 石牟礼道子著(講談社文庫 2004年)
- 『動物絵本をめぐる冒険:動物-人間学のレッスン』 矢野智司著(勤草書房 2002年)
- 『他者の記号学:アメリカ大陸の征服』 ツヴェタン・トドロフ著(法政大学出版局 1986年)
- 『逝きし世の面影』 渡辺京二著(平凡社ライブラリー 2005年)
- 『愛と支配の博物誌:ペットの王宮・奇型の庭園』 イーファー・トゥアン著(工作舎 1998年)
- 『旅の思想史:ギルガメシュ叙事詩から世界観光旅行へ』 エリック・J・リード著(法政大学出版局 1993年)
- 『交易する人間(ホモ・コムニカンス):贈与と交換の人間学』 今村仁司著(講談社選書メチエ 2000年)

専門はアメリカ文学 / アメリカ文化です。わけても自然環境と文学の関係、あるいは文学からの環境研究という特異な分野です。ご紹介する10冊は、私に大きな知的刺激を与えてくれる書物であり、くりかえし立ち返る書物の一部です。

1~4は自然を考える現代作家たちの作品。1は渡り鳥をめぐるノンフィクション(読売文学賞受賞)。ナチュラリストとしての梨木氏の他者論的思考の深さ。2も鳥つながり。こちらはフィクション。鳥を主人公とする小説。可能なかぎり擬人化を排する実験小説。世界的にも珍しい仕掛けの物語。3の藤原氏は写真家にしてノンフィクション作家。1980年代東京。自然の排除へ突き進む東京という都市の異様さを描きつつ、「東京最後の野犬」(=野性)喪失の物語を潜在させる。4は水俣病をめぐる世界的にも著名なノンフィクション。患者という言葉なき他者、その内面に向かう作家の想像力に唖目する。ノンフィクションと「想像力」

が矛盾しない証左。5は教育学者による動物絵本研究。なぜ子どもが最初に出遭う本には動物が登場するのか。答が知りたい方は必読。人間にとって動物とは何かを根源的に問う「動物-人間学」を提唱。6は近代の出発点をアメリカ発見に見いだす。アメリカ大陸においてヨーロッパ人が勝利したのは、物量ではなく、その近代的「コミュニケーション・スタイル」によると結論づける。7は近代以前の日本社会を目撃した来訪外国人たちによる記述を徹底的に読み直した評論。涙なくして読めず。もはや「失われた世界」という意味で「逝きし世」。その美しさ。8はアメリカを代表する地理学者によるペットと庭園を論じた評論。いずれも愛が支配である世界。9は「旅人社会」となった私たちの社会の何がどのように変わったかを多面的に描き出す。10は世界を交易=コミュニケーションの場としてとらえ出す。この社会思想家の晩年の仕事自然の問題であったことへの驚き。

Your Library

立教大学図書館だより No.33 | 2015.07.06 SUMMER ISSUE | ISSN 1883-1303

レポート課題
攻略への道

レポート作成ステップはこれだ!

[Information]

グループ学習室 こんなことができます!

池袋・新座図書館のグループ学習室をご存知ですか? グループで学習や研究を行うことができるスペースです。ホワイトボードを使ったグループワーク、PC画面をモニターに映し出しプレゼンテーションの練習をしている姿をよく見かけます。室内に設置されている備品(ホワイトボードやディスプレイ、延長コードなど)は自由に使うことができます。なんと新座には壁一面のホワイトボードが設置されています。



<利用ガイド>

- *利用には予約が必要です。池袋・新座図書館2階カウンターで手続きをしてください。
- *利用可能時間:(平日)開館時間~21:00 / (土日)開館時間~閉館時間15分前まで
- *祝日、長期休業期間の予定はカウンターでご確認ください。
- *1回の利用時間は2時間です。後に予約がなければ1時間毎に延長も可能(2回まで)。



Your Library 第33号(通号92) 発行日 2015年7月6日

編集 小林 憲太郎(図書館副館長) <http://library.rikkyo.ac.jp/>
 発行人 豊田 由貴夫(図書館長) 連絡先 TEL 03-3985-2628
 発行 立教大学図書館 印刷 立教プリンティングステーション



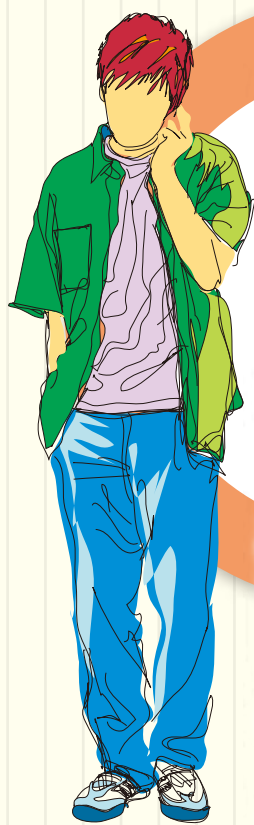
読書ナビ

野田 研一教授

異文化
コミュニケーション
研究科

形式を整える

テーマ設定



文献調査 ～根拠となる情報を収集する～

レポートを書くときには、明確な根拠に基づいて自分の主張を展開する必要があります。そのためには、文献調査がとて重要になります。

★図書館には、図書をはじめ、雑誌や新聞、オンラインデータベースなどの様々な資料や検索ツールがあります。これらをフル活用して、効率よく情報を収集しましょう。

活用講座

文献の探し方を学びたい人にオススメ!

図書や雑誌の探し方について実習しながら学べます。
※新座は、担当者で相談して内容を決めます。

図書を探す
OPAC



雑誌記事を探す
CiNii Articles



新聞記事を探す
新聞データベース



ラーニングアドバイザー推薦本

「レポートは論理的に書きなさい」と言われて、「論理的って」と思っているあなた、この本がおすすめです。一般的なハウツー本とは違って、「論理的であることとはなにか」の根本を、多彩で読みやすい例から教えてくれます。自分の今書いていることが単なる「感想」なのか「意見」なのか。この本を読めばわかります。「論理」の根本を学べば、レポートに役立つだけでなく、あなたのものの書き方が変わります。(ラーニングアドバイザー 乙幡翔太郎)

『入門!論理学』
野矢茂樹
中央公論新社、2006

検索はこちら



「レポートには2種類ある」

観光学部 豊田由貴夫先生

昨年号で小林憲太郎先生がレポートには2種類あると言っています。私なりに少し言い方を変えると、自分の主張が要求されないレポート(報告型レポート)と、主張が要求されるレポート(論文型レポート)です。これを間違えると高い評価は得られません。困るのは、教師の多くはどちらのタイプのレポートを望んでいるのか、学生に言わない場合が多いのです。学問分野によってどちらか一方のレポートが当然となっている場合が多く(例えば人文科学系は論文型レポートを望む場合が多いです)、教員はあまり意識しない場合があります。わからない場合は教師に直接聞いてみるのもいいかもしれません。

